

2014年度にジャーナリズムプログラムが開講する「FLP演習A（2年次）」の 担当予定者とその講義概要

2014年度に開講する「FLP演習A」の担当予定者とその講義概要は、「プログラム」を選択する際、参考にさせていただくために作成しました。そのため、現時点の「FLP演習A」の担当予定者であり、エントリーシートの提出後、演習担当予定者の変更があり得ることをお含みおきください。

* A（担当：鈴木 俊幸・文学部）

テーマ：明治前期を主とした出版メディアと広告の研究

演習概要：

- (1)近代ジャーナリズム成立期の印刷・出版文化の状況を具体的資料の精読を通じて理解する。
 - ・地域における印刷・出版のインフラ整備を推し進めた都道府県の事業を文書の読解を通じて明らかにする。
 - ・新聞の普及状況、新聞読者層の変化について、特定地域について跡づける。
 - (2)広告を主たる資料として、出版と書籍流通の変化を理解する。
 - ・新聞広告を主な素材とするが、引札等他の広告メディアについても理解を深める。
 - ・広告メディアとしての側面から、新聞というメディアの史的展開を考える。
- *上記演習の素材収集のためにゼミ合宿を行う。

* B（担当：松田 美佐・文学部）

テーマ：ネット時代のジャーナリズムと取材・表現活動の実践

演習概要：ネット社会の進展にともない新聞やテレビなど伝統的メディアの報道に批判の目が向けられるなか、ジャーナリズム機能をどう維持、発展させるかが問われている。本演習では既存メディアのジャーナリズムのありようを検討すると同時に、ネット社会におけるジャーナリズムの可能性を探ることを目的とする。具体的には、ジャーナリズムの原理・理念について文献で学んだ後、さまざまに展開しているネット上でのジャーナリズム活動の現状と可能性を把握することとする。

それと並行する形で、受講生自らが取材し、記事にまとめる活動をおこなう。具体的には、夏期ゼミ合宿を取材・調査にあてることとし、前期には取材地の選定から始め、グループに分かれて取材の準備をおこなう。後期にはゼミでの発表などを通じて、記事にまとめることとする（なお、2013年度は山梨、2012年度は沖縄でおこなった）。このような取材・表現活動の実践により、ジャーナリズムだけでなく現代社会で広く必要とされている「主体的に情報収集し、議論を通じて理解し、自分なりの見解をまとめ、わかりやすく表現する力」を磨くことを目的とする。

* C（担当：辻 泉・文学部）

テーマ：ポピュラー文化とジャーナリズム

講義概要：本演習は、ポピュラー文化に関連するジャーナリズムの実態について、広く理解を深めることを目的としている。たとえば、趣味やファッション、ライフスタイルに関する雑誌やインターネット情報であったり、あるいはスポーツジャーナリズムであったりというように、ジャーナリズムはいわゆる堅苦しい「ニュース」だけに関連するものではない。

むしろ、われわれの日常生活において身近な、ポピュラー文化を切り口にして、今日のジャーナリズムの実態や問題点について考えてみたい。

具体的には、関連する文献の読解からスタートして、実際にメディア情報の内容分析を行ったり、あるいはこれらの情報発信に携わる現場への訪問調査なども織り交ぜつつ取り組んでいく。

なお2014年度は、男性ファッション雑誌とそのオルタナティブメディアを中心テーマとして取り上げる予定であるが、この点については、受講生と相談の上で決定する。

*** D (担当：大橋 正和・総合政策学部)**

テーマ：Social Media と現代社会の変容に関する研究

演習概要：現代社会におけるSocial Mediaの発展とその影響について20世紀から21世紀へ現代社会の変容についても研究する。Social Mediaの急速な進展とその社会への影響について既存メディアとの関係を明らかにしながら研究を進める。Social Mediaの中からFacebookの研究を中心に、社会へ与える影響特にメディア、教育、マーケティング、消費行動など社会生活と情報社会へ与える変容を研究する。ICT（情報通信技術）の急速な進展についても合わせて研究する。特に、Social Mediaを支えるクラウドコンピューティングについても理解を深める。関連研究成果の国内外での発表、Social Mediaに関する海外での調査研究を実施する予定である。

*** E (担当：松野 良一・総合政策学部)**

テーマ：ドキュメンタリー番組の制作とルポルタージュの執筆

演習概要：実際に企画、取材、撮影、編集を行い、放送用のドキュメンタリー番組を制作する。また、ルポルタージュを書くトレーニングも行う。これによって、ジャーナリストとして必要とされる能力を育成する。

1、番組「多摩探検隊」「につぼん列島探検隊」「子ども放送局」の制作・放送。「多摩探検隊」は、首都圏と九州で約260万世帯が視聴可能な番組に成長している。

2、ノンフィクションの取材・執筆実習。

これまでに「戦争を生きた先輩たち」「沖縄問題の証言」（「大韓航空機007便—遺族の証言」）が出版、あるいは出版にむけ編集中。「台湾228事件と中大卒業生」（プロジェクトが進行中）

3、松野ゼミでは、次の4職種を募集する。①記者②キャスター③ディレクター④Web担当者

*** F (担当：市川 哲夫・総合政策学部)**

テーマ：放送メディアの将来展望

演習概要：2013年は、テレビ放送開始60年にあたり、テレビに注目が集まった。

番組においてもNHKの『あまちゃん』TBSの『半沢直樹』という大ヒット作が生まれた。

しかしこの数年来ソーシャルメディアの急拡大で、殊に若者世代を中心に、「テレビ離れ」が目立つのも事実である。そこで私のテレビ放送人としての40年に亘る経験を通して、テレビの生成発展の歴史を振り返り、これからのテレビメディアの可能性を展望する。

進路としてメディアへの就業を考えている学生諸君の参加を望みたい。

<募集要項の訂正について>

募集要項7ページ「教育システム」に記載されている修了要件に訂正があります。

変更になる箇所は、次の表の網かけ部分及び下部注意書き部分です。

| 科目区分 | | | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 設置学部 | 履修方法 | | |
|------|------|---------|--------------------|-----|------|-------------------|-----------|---------------|----------|
| 講義科目 | 基礎科目 | メディア基礎系 | プログラムが指定する各学部の講義科目 | 1~4 | 1~4 | 所属学部 又は 他学部 | 4単位 必修 | ※ 10 単位 | 22 単位 |
| | | メディア実践系 | | | | | 4単位 必修 | | |
| | 関連科目 | | | | | | | | |
| 演習科目 | | FLP演習A | 4 | 2 | | 所属学部 | 12 | | |
| | | FLP演習B | 4 | 3 | | | 単位 | | |
| | | FLP演習C | 4 | 4 | | | 単位 | | |

※必修科目単位数を除く残り2単位については、講義科目全体から履修することとする。